

FLP 地域・公共マネジメントプログラム
「Summer School in 駒ヶ根市」報告書の刊行にあたって

中央大学「地域・公共マネジメントプログラム」は、学部を横断するゼミ形式の学びの場であるファカルティリンケージ・プログラム (FLP) の5つ目の教育プログラムとして2008年度に始動しました。FLPは、学部横断で可能になる学際的な視点と、現実に行っている問題、事象を起点とし、常にそこに立ち返るプラグマティックな視点を大学での学びの機軸にするものです。その中で、地域・公共マネジメントプログラムは、人びとの生活の拠点としての地域に焦点を当てています。活気ある地域での豊かな暮らしを望むのはその地域で暮らす人々であり、また、困窮等の中にあるために必要なサービスを届けてもらうのも地域で暮らす人々です。生活の豊かさやサービスの質と量は、地域の公的なマネジメントを担う自治体の政策で大きく左右されるのはもちろん、豊かさを享受できるように街を整え、ニーズに応えるサービスを届けるのは自治体です。

本プログラムは2年次に履修を始め、卒業までの3年間、学部横断のゼミで学びを重ねますが、履修生の学びの土台として設けているのが2年次のSummer Schoolです。2008年度以降、2020年度にコロナ禍のため実施を見送った他は、自治体のご協力を得て、毎年実施してきています。プログラムの2年次の全ゼミが参加し、実施後には、自治体からのご出席も得て、成果報告が行われます。成果報告では各ゼミからのヒアリング成果が披露され、政策提言が行われるので、訪問した地域、自治体の様々な側面を学ぶことができ、テーマが重なる場合でも、ゼミごとに違った着想やアプローチからの報告がなされるので、学部横断で学際的な学びを地域・公共について進めるうえで大きな財産になります。

本年度は、長野県駒ヶ根市がSummer Schoolを受入れてくださいました。6月30日には、各ゼミのヒアリングテーマとその理由について駒ヶ根市からオンライン方式でアドバイスをいただき、その後各ゼミの事前リサーチで生じた疑問点について、8月2日のオンライン・ミーティングで、駒ヶ根市からご回答をいただきました。このようなご対応を経て、9月4日から2泊3日の日程でSummer Schoolを駒ヶ根市にて実施しました。この期間中には、駒ヶ根市のご案内のほか、ゼミのヒアリングへのご同行で市役所の皆さまにお世話になりました。Summer School最終日の午前に行った中間成果報告では、伊藤祐三市長、駒ヶ根市総務部企画振興課はじめ市役所の皆さまにご臨席いただきました。各ゼミは、講評でいただいた新たな問いや課題に取り組み、12月9日に多摩キャンパスにて期末成果報告を実施しました。期末成果報告に駒ヶ根市からご参加いただいた伊藤市長から、駒ヶ根市の実情と課題に沿う、よく練られた報告であるというご評価をいただきました。本報告書はその報告をもとにした一年の集大成です。

Summer Schoolの成果をこのようにまとめることができましたのは、プログラムに係わる教職員にとって大きな喜びです。駒ヶ根市の伊藤市長、市役所の皆さまにあらためて厚く御礼申し上げます。加えて、今年度のSummer Schoolでは、学生の皆さんが真摯な学びを重ねたことを記したいと思います。